NO.11

MY FIELD

MY FIELD とは…

原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。
原村で暮らす、おもしろくて素敵なひとを紹介します。

「八ヶ岳原村ブルーベリーカシス農園」
遊佐　年雄さん（62）
陽子さん（47）

結婚後、神奈川県横浜市で暮らしていたが、山梨県・白州へ家族でキャンプに行ったとき移住を考え、平成20年の夏に原村へ移住。現在は野菜・ベリーの栽培をしている。

地域に溶け込みたかったから
仕事は地域の人と同じ農業をやろうと思った

横浜ＹＭＣＡでキャンプ指導員をされていた年雄さんと陽子さんは、共にアウトドアが大好きなご夫婦。

年雄さんは大手重工業の研究所に勤務し、海外出張も多く忙しい日々にも関わらず、休日はキャンプ指導員として、たくさんの子どもたちを連れ、登山やキャンプをして過ごしていた。そんな年雄さんを見て、陽子さんは「いつか自然の中で暮らすのだろう」と思っていたという。

そんな中、夏に家族でキャンプをしに山梨県の白州を訪れ自然の中で過ごしていた時、「移住してもいいかな」と思い、秋には情報収集のため田舎暮らしの本を購入。同年、移住の決意を固める。

「地域に溶け込みたかったから仕事は地域の人と同じ農業をやろうと思った」と、長年勤めた会社を早期退職し、全く経験のない農業の世界へ飛び込み、一から勉強をした。県の就農コーディネーターの方のアドバイスにより諏訪地方を訪れたのがきっかけで移住先を原村に決めた。

当時は移住して新規就農する人は少なく、どこに相談しても相手にされなかったと言う。「頼るところがなかったから自分たちで勝手に始めた。そしたら近所の人たちが手を貸してくれて随分助けられた。」と当時を振り返った。

そんな遊佐さんご一家の珍しい移住のスタイルは雑誌やテレビで取り上げられ、それを見た新規就農を志す人たちが遊佐さんに助言を求めて集まるようになった。

頼られたら放っておけないご夫婦は見ず知らずの人を自宅に招き入れ、自分たちの生活を包み隠さず見せ、実体験を語っている。「実際に家に来てもらい生活の場を見せてあげないと。一緒にご飯食べてお酒飲んで、楽しく過ごせば安心するでしょ。」と懐の大きさを感じさせる笑顔。

遊佐さんにお世話になった人たちが人を呼び、その人がまた人を呼ぶ。明治時代に建てられた大きな古民家にはいつも人が集まり、新たな輪をどんどん広げ、草の根の「地域おこし」をされている。

＊

新旧問わず、大地のような懐の大きさと優しさで迎えてくれる遊佐さん夫婦は、皆の大きなお父さん、お母さんのようだ。

NEXT　MY FIELD No.12 は女性で「わな狩猟免許」を持っていらっしゃる大山真裕さんをご紹介！次回をお楽しみに～◎